

近代鎌倉の文化遺産保護と宝物館設立事情

講師：浪川幹夫様（鎌倉市文化財課学芸員）

御谷館について3月に片山会員から発表がありました。今回はその御谷館が展示施設として使われたことを含めて、鎌倉の寺社有宝物が神仏分離によって散逸してから鎌倉国宝館が開館するまでを、浪川様にご講演いただきました。

幕末まで鶴岡八幡宮寺だった鶴岡八幡宮は、明治3年に境内の仏像や経典を放出。明治13年に龍池会が開催した観古美術会には鶴岡八幡宮が所蔵する現国宝の籬菊螺鈿蒔絵硯箱が出品されました。明治18年に設立された鎌倉保勝会には、神奈川県令の沖守固を始め、原善三郎、茂木惣兵衛、平沼専蔵らの有力な横浜商人が名を連ねました。鎌倉懐古

展覧会は、鶴岡八幡宮宮司の菅崎博尹が明治24年に始め、明治32年まで毎年開催されましたが、その第一回の会場が御谷館です。第二回以降の会場は鶴岡八幡宮上宮廻廊でした。関東大震災を経て、昭和3年に鎌倉国宝館が開館しました。

鎌倉と横浜商人のつながりは深く、御谷館と周辺の土地は菅崎博尹の所有でしたが、明治26年に原善三郎、32年に原善一郎へ引き継がれました。菅崎が土地を手放した理由は分かりませんが、現在は巨福呂坂の新道が開発されてバス通りになり、御谷館があった場所の近くには歐林洞という店があります。



講師の浪川様

